

| | |
|----------|--------------------------|
| 氏名 | 市古 夏生 ICHIKO Natsuo |
| 所属 職名 | 人間文化創成科学研究科文化科学系 教授 |
| 学位 | 博士（文学）（早稲田大学 1998） |
| 専門分野 | 日本近世文学 出版文化学 書誌学 |
| URL | |
| E-mail | ichiko.natsuo@ocha.ac.jp |

研究者キーワード / Keywords

日本近世文学
仮名草子
浮世草子
出版文化
原稿料

主要業績

明暦三年江戸大火之事（『国文』113号、PP53-65）

『増益書籍目録』の成立と展開（『かがみ』41号、PP27-52）

江戸時代初期出版年表（共編、勉誠出版、628頁）

江戸から明治に至る著作権と報酬の問題（市古責任編集『江戸文学』42号、PP4-19）

《座談会》十七世紀の文学（『文学』11-3、PP2-31）

研究内容 / Research Pursuits

日本近世文学の中で17世紀を中心に研究を行っているが、ここ2、3年江戸時代初期の小説・随筆類の中で、写本で流通している書物を精査し、版本との相違や独自性、特色などを考察しつつある。また近世文学は出版文化の開花した時代であり、文学環境の1つとして出版に関する究明が必要である。元禄時代に刊行されている「書籍目録」の諸本調査と収載書籍の基準などについて研究を進めており、『増益書籍目録大全』諸本調査に関して完成させた。また17世紀の出版文化を研究する上での基礎資料となる出版年表の作成に参加した。出版文化が開花してから起る現象として、作者・著者の権利、すなわち著作権の問題がある。著者への報酬（原稿料・印税）がどのように推移し、どの程度の収入があるのか、文学者の経済的な基盤が確立する時期などに関する究明を行うため、科研費でプロジェクトを組んでいたが、その研究成果の一端を2010年度に公表した。

■ 教育内容 / Educational Pursuits

文教育学部では、「日本古典文学史論」で近世小説の展開を作品を紹介しつつ、講義をしている。「日本古典文学論演習」では、語句や背景となる風俗を調査させて、近世小説の読み方を習得させた。22年度は前期に西鶴の浮世草子『本朝桜陰比事』、後期に上田秋成の浮世草子『諸道聴耳世間猿』を対象とした。大学院では「日本近世出版文化演習」では版本書誌学を講義し「日本近世文学演習」では仮名草子の『名女情比』に関して、古典文学に登場する女性を受講生に割り当て、他の作品を参照しつつ、その特色を考察した。

■ 研究計画

?18年度より3年間科学研究費補助金で「出版機構の進化と原稿料についての総合的研究」を6名の研究者とともに推進しており、近世から現代に至る作家の経済的自立に関する推移をまとめたが、さらに報酬と著作権のデータの採集を有志で継続し、書物にして広く研究者が利用できるようにする。?近世前期の出版物の目録である「書籍目録」の諸本調査と、出版者別に出版書をリストにし、文学関係出版者の特色、文学書の位置づけなどを考察する。?それに合わせて共同研究として行われてきた近世前期の出版書年表の作成を試みる。?写本と版本の混在する仮名草子に関して、メディアの視点から分析を進める。?仮名草子から浮世草子にかけて、女性に対する表現を分析する。

■ メッセージ

現代から一番近い時代の古典文学、これが近世文学です。文体、語句なども近代以降に繋がるものなので、読み慣れると理解することが容易であると思います。井原西鶴、曲亭馬琴などの書いた小説、松尾芭蕉の俳諧・奥の細道などはよく知られていますが、それ以外にも面白い怪異小説、遊里文学、滑稽小説などがたくさん残されています。また文学作品を出版し始めたのが江戸時代です。出版されるようになって作品はどのように変質したのか、出版に関わる規制の実態、作者と出版者との関係など興味は尽きません。近世文学の世界をぜひとも知っていただきたいと思います。